

森林施業低コスト化促進事業（新規）

【平成25年度概算決定額 23,523（0）千円】

事業のポイント

これまで開発してきた造林等の省力化技術を分析・評価するとともに、多様な条件下で実施し、作業効率やコストのデータを収集・公表し技術の普及を図ります。

<背景／課題>

- ・ 持続的な森林経営の推進に向けた森林経営の採算性の向上や今後増加が予想される再造林面積の増加に対処するため、造林を始めとする森林施業の低コスト化が必要となっています。
- ・ これまで開発に取り組んできた技術を分析・評価し、全国的に低コスト化技術を定着させることが課題となっています。

政策目標

森林整備の集約化や機械化に必要な路網等の林業基盤の整備により、木材の安定的かつ効率的な供給が可能となる育成林の資源量を増加させます。
（10億5千万 m^3 （平成20年）→12億1千万 m^3 （平成25年））

<内容>

1. 造林の省力化技術の分析・評価

造林のコストにおいて大きな割合を占めている人件費の削減を図ることを目的として開発された省力化技術による作業体系の分析・評価等を実施します。

2. 低コスト造林等導入促進事業

新たに低コスト造林等の技術を現地に導入するため、専門家等による検討会の開催、作業効率やコスト等を把握するためのデータの収集・分析等を実施します。

<事業実施主体>

民間団体

<補助率>

定額

<事業実施期間>

平成25年度～27年度（3年間）

[担当課：林野庁研究・保全課、整備課、業務課]